

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11421

研究課題名（和文）認知症高齢者における重症度・居住形態別ADLリハビリテーション戦略の構築

研究課題名（英文）Development of ADL Rehabilitation Strategies for Elderly People with Dementia by Severity of Disease and Living Arrangement

研究代表者

田中 寛之（Tanaka, Hiroyuki）

大阪公立大学・大学院リハビリテーション学研究科 准教授

研究者番号：10800477

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：効果的・効率的に認知症リハビリテーションを実施するためには、対象者の重症度・居住形態別に日常生活（Activities of Daily Living; ADL）障害の背景要因を明らかにし、その背景要因を改善するための介入を行うことが重要である。認知症者のADL障害の背景因子として、認知機能障害、妄想などの行動心理学的症候など様々な要因が指摘されている。先行研究の多くは、交絡因子の調整が不十分であることなど限界を有していた。本研究では、重症度別・居住形態別のADL障害の要因を同定し、それぞれのステージにおけるリハビリテーションの戦略を検討することである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、主に中等度以降の段階では、ADL障害は認知機能障害だけでなく、併存疾患の重症度、栄養状態、BPSDの中でも特にうつ・焦燥性興奮など様々な要因が関連していること明らかになった。さらにADLの項目別にみると、さらに細かく関連要因が異なった。また、文献レビューを通して、軽度認知症に対しては認知機能障害を補填するような環境設定や生活行為のスキルの向上のための反復練習や課題志向型練習、中等度以降の認知症に対しては種々の要因に対する包括的な介入が重要であると考えられた。

これらのことから、従来の介入方法を重症度・居住形態に分けて考えることが必要であると示唆された。

研究成果の概要（英文）：In order to effectively and efficiently implement dementia rehabilitation, it is important to clarify the background factors of ADL (Activities of Daily Living) impairment according to the severity and residential status of the subjects, and to provide interventions to improve these background factors. Various factors such as cognitive dysfunction and behavioral psychological symptoms such as delusions have been pointed out as background factors of ADL impairment in people with dementia. Many of the previous studies had limitations, such as insufficient adjustment for confounding factors. The purpose of this study is to identify factors of ADL impairment by severity and residential type, and to examine rehabilitation strategies at each stage.

研究分野：認知症

キーワード：認知症 リハビリテーション ケア

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### 1) 認知症リハビリテーションにおけるこれまでの問題点について

認知症重症化は日常生活(Activities of Daily Living; ADL)障害の増悪が主たる原因であり、リハビリテーションでは認知症者のADLを維持・改善する必要がある。認知症者のADLは重症度や居住形態によってその状態は大きく異なるため、ADL障害に対する効果的なりハビリテーションを行うには重症度・居住形態ごとにADL障害の背景要因を明らかにする必要がある。

#### 2) 認知症のADL障害に関連する因子について

認知症者のADL障害に関連する因子として、認知機能障害をはじめ、妄想や昼夜逆転などの行動心理学的症候、栄養障害、並存疾患の重症度などの要因も指摘されている。しかし、それらを報告した研究には、交絡因子の調整が不十分なものも多い。また、Volicer, et al. (2010) は、認知症者へのリハビリテーションをする上では、重症度・居住形態別に適切なアウトカム指標を用いて効果を分析する重要性を指摘しているが、多くの先行研究では重症度包括的な評価指標を用いており、重症度・居住形態ごとにリハビリテーション効果を詳細に明らかにできていなかった。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、認知症者のADLの改善のためにより効率的・効果的なりハビリテーションプログラムを構築することを目的としている。そのためにも、まずは、ADL障害の要因を明らかにすることである。本研究を通して重症度別・居住形態別のADL障害の背景要因が明らかになれば、これまでADL低下予防のために行われてきた画一的な運動療法や認知訓練などを見直すきっかけになり、個別化されたりハビリテーションプログラムを構築する足がかりとなると思われる。

### 3. 研究の方法

#### ADL障害の要因同定

対象者： Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders 5th edition (DSM-5) の診断基準に従い、病歴、症状、神経学的所見および画像所見により認知症と診断された患者とする。除外基準として、認知症を除く神経学的疾患や整形外科疾患など精神・身体機能に大きな影響をおよぼす合併症を有する者、意識状態の不安定な者、評価1週間以内に抗精神病薬、抗うつ薬、睡眠薬を新たに服用開始した者、転倒や肺炎など明らかに評価結果に影響をおよぼす医学的イベントが発生した者とする。

手続き：全対象者を、認知症重症度分類の評価を実施し、軽度、中等度、重度に分類する。年齢・性別・教育歴、医学的合併症などの基本属性、認知機能、ADL、行動心理学的症候、栄養学的指標、並存疾患重症度を評価する。

統計解析として、ADL指標の合計点およびADLの各項目を被説明変数とし他の指標を説明変数として重回帰分析を用いてADL障害の要因を検討する。

#### ADL改善のための文献レビューおよび予備的な症例介入の実施

Pubmed, Scopus, 医学中央雑誌にて、ADLに対する介入効果検証を行なっている文献をハンドサーチしレビューを実施し、各重症度や居住形態に適合する介入手法を検討し、予備研究として症例へ介入を実施した。

#### 4. 研究成果

について、一般病院に入院患者の重度段階を中心とした131名に対して実施し、ADL指標の合計点は、認知機能障害を中心として、併存疾患の重症度、栄養状態、BPSDの中でも特にうつ・焦燥性興奮が関連していた(表1)。しかし、項目別にみると、排泄では認知機能、うつ・焦燥性興奮、膝の筋緊張の程度(可動域の制限)で、食事では、認知機能、うつ・焦燥性興奮、併存疾患となり関連要因が一部変わり、さらに、移動では、併存疾患、うつ・焦燥性興奮、膝の筋緊張の程度(可動域の制限)、そして栄養状態が関連していた。つまり、主に重度段階にはなるが、ADL障害は項目ごとに関連要因が異なるため、一概に認知刺激のみや特定の療法のみを実施すればよいという単一的介入ではなく、広い視野で治療介入を進める必要があるといえる。

表1. ADLの合計点を従属変数とした重回帰分析の結果

All subjects		P Value
MMSE(認知機能)	.559***	.000
PAIN-AD(痛み)	-.130*	.039
CIRS(併存疾患の個数)	-.064	-.300
CCI(併存疾患の重症度)	-.228***	.000
MNA-SF(栄養障害)	.231***	.000
NPI-NH(BPSD)	.095	.117
CSDD(うつ・焦燥性興奮)	-.158**	.006
Adjusted R <sup>2</sup>	.557***	.000

\*\*\* <0.001, \*\* <0.01, \*p<0.05

さらに精神科病院においても、10名の認知症患者を対象に実施したがCOVID-19の影響を受けデータ収集が十分ではなく、解析に至らなかった。

について、認知症の前駆段階とされる軽度認知障害(Mild Cognitive Impairment; MCI)においても金銭管理や服薬管理など複雑なIADLの障害が認められるなど、実生活場面でのADLの維持・改善の重要性が増しており、認知症リハビリテーションのアウトカムとしてADLに改めて注目されるようになった。

これまでに明らかにされているADL障害に対する介入時期、内容について、Graffらは、在宅の軽度から中等度の認知症者に対して、5週間にわたる10セッション(1回1時間)ので残存している認知機能を活用し、自助具など道具を使用する代償方法を練習するとともに、家族介護者に対して監督技能や対処行動を指導した結果、認知症の人のADL技能が向上し、家族介護者の介護負担が軽減したと報告している。Alexらは、認知症者の残存する能力と障害されている工程を評価しADL遂行支援としての声やビデオガイドを使用した支援機器COACH(Cognitive Orthosis for Assisting aCtivities in the Home)を開発し手洗いの生活行為に対して、介護者の負担の60%を軽減することができたことを報告した。

Gitlin らは、家庭環境スキル構築プログラム（Home Environmental Skill-building Program：ESP）を用い、認知症高齢者と家族介護者に 127 組に対して認知症に関する教育、問題解決、対応技術および簡単な家の環境調整等の支援と認知症の人の ADL 訓練を行い、家族の情動の改善と ADL 介助量、スキルの向上、記憶に関連する BPSD の発生頻度に対して効果的であったことを示した。Voigt らは、軽度から中等度 AD を対象に、ADL の再獲得のためにエラーレスラーニングとトライアンドエラー学習の反復的技能練習の効果を比較検討した。両群ともに初期から介入後には有意に ADL が改善したことを報告した。Ciro らは、ADL の再学習の方略として、事情具や支援機器などの物理的環境に対する介入や家族への対処行動の支援、課題志向型練習(Skill-building through Task Oriented Motor Practice; STOMP)を用いて、その介入効果について検証している。本邦においては、堀田らが STOMP を参考にした生活行為工程分析に基づいた介入により、服薬管理などの生活行為の改善が認められたことを報告している。

ADL に対して成果をあげている先行研究では、対象者その人のこれまでの生活の文脈・課題に焦点を当て、活動・参加レベルの目標を立てた目標指向型の介入が多い。

これらのことから、軽度認知症に対しては認知機能障害を補填するような環境設定や生活行為のスキルの向上のための反復練習や課題志向型練習、中等度以降の認知症に対してはうつ・焦燥性興奮や栄養状態、痛みなども標的にした包括的な介入が重要であると考えられた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計28件（うち査読付論文 23件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Nagata Y, Nishikawa T, Tanaka H, Ishimaru D, Ogawa Y, Fukuhara K, Shigenobu K, Ikeda M	4. 巻 22
2. 論文標題 Factors influencing the quality of life in patients with severe dementia.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 49-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tanaka H, Umeda R, Nagata Y, Ishimaru D, Kurogi T, Fukuhara K, Nishikawa T	4. 巻 22
2. 論文標題 Clinical Utility of an Assessment Scale for Engagement in Activities for Patients with Moderate to Severe Dementia: Additional Analysis, psychogeriatrics	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 433-444
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12835	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tabira T, Hotta M, Maruta M, Ikeda Y, Shimokihara S, Han G, Yamaguchi T, Tanaka H, Ishikawa T, Ikeda M	4. 巻 15
2. 論文標題 Characteristic of Process Analysis on Instrumental Activity of Daily Living According to Severity of Cognitive Impairment in Community-Dwelling Older Adults with Alzheimer Disease	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/s1041610222000552	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Tsubouchi Y, Tainosho A, Shimomura K, Yorozyua K, Motoasa K, Tsuboutchi R, Tanaka H: Naito Y	4. 巻 10
2. 論文標題 Reliability and validation of the Japanese version of the Patient Empowerment Scale	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Healthcare	6. 最初と最後の頁 1151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/healthcare10061151	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimokihara, S, Tabira T, Hotta M, Tanaka H, Yamaguchi T, Maruta M, Han G, Ikeda Y, Ishikawa T, Ikeda M	4. 巻 22
2. 論文標題 Differences in Detailed Implementing Processes for Basic Activities of Daily Living by Severity of Cognitive Impairment in Community-dwelling Older Adults with Dementia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 859-868
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12894	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miyajima M, Miyata T, Murakami Y, Yotsumoto K, Ukita A, Morimoto T, Kobayashi M, Tanaka H, Yamada S, Matusaki Y, Inoue T	4. 巻 -
2. 論文標題 Risk level-specific hazardous drinking factors of alcohol use disorders in Japanese university students	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Substance Use	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14659891.2022.2144502	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石丸大貴, 田中寛之, 永田優馬, 西川 隆	4. 巻 36
2. 論文標題 日本語版Menorah Park Engagement Scale (MPES-J)の紹介 -認知症者のengagementを捉える評価尺度の導入-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天真 正博, 福本 拓見, 田中寛之	4. 巻 36
2. 論文標題 回復期リハビリテーション病棟における認知症作業療法	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中寛之	4. 巻 2
2. 論文標題 中等度・重度認知症のリハビリテーション	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 老年療法学雑誌	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Hiroyuki, Umeda Ren, Shoumura Yuko, Kurogi Tatsunari, Nagata Yuma, Ishimaru Daiki, Yoshimitsu Koji, Tabira Takayuki, Ishii Ryouhei, Nishikawa Takashi	4. 巻 21
2. 論文標題 Development of an assessment scale for engagement in activities for patients with moderate to severe dementia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 368 ~ 377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12678	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yahara Megumi, Niki Kazuyuki, Ueno Keita, Okamoto Mio, Okuda Takeshi, Tanaka Hiroyuki, Naito Yasuo, Ishii Ryouhei, Ueda Mikiko, Ito Toshinori	4. 巻 44
2. 論文標題 Remote Reminiscence Using Immersive Virtual Reality May Be Efficacious for Reducing Anxiety in Patients with Mild Cognitive Impairment Even in COVID-19 Pandemic: A Case Report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Biological and Pharmaceutical Bulletin	6. 最初と最後の頁 1019 ~ 1023
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1248/bpb.b21-00052	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ogawa Yasuhiro, Fukuhara Keita, Tanaka Hiroyuki, Nagata Yuma, Ishimaru Daiki, Urakawa Mizuki, Nishikawa Takashi	4. 巻 209
2. 論文標題 Insight Into Illness and Psychological Defense Attitudes in People With Chronic Schizophrenia Using Markova's Insight Scale	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Nervous & Mental Disease	6. 最初と最後の頁 879 ~ 883
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/nmd.0000000000001392	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagata Yuma, Nishikawa Takashi, Tanaka Hiroyuki, Ishimaru Daiki, Ogawa Yasuhiro, Fukuhara Keita, Shigenobu Kazue, Ikeda Manabu	4. 巻 22
2. 論文標題 Factors influencing the quality of life in patients with severe dementia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 49 ~ 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12775	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka H, Umeda R, Nagata Y, Ishimaru D, Kurogi T, Fukuhara K, Nishikawa T	4. 巻 22
2. 論文標題 Clinical Utility of an Assessment Scale for Engagement in Activities for Patients with Moderate to Severe Dementia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 433-444
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中寛之, 永田優馬, 石丸大貴, 高本雄太	4. 巻 55
2. 論文標題 iPadを用いて余暇活動の獲得を図った長期入院中の広範脊柱管狭窄症の一症例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1321-1324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中寛之, 上野慶太, 浦川瑞穂, 内藤泰男, 石井良平	4. 巻 28
2. 論文標題 精神科デイケアにおけるオンライン臨床実習の予備的取り組み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リハビリテーション教育研究	6. 最初と最後の頁 227-228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka H, Umeda R, Shoumura Y, Kurogi T, Nagata Y, Ishimaru D, Tabira T, Yoshimitsu K, Ishi R, Nishikawa T	4. 巻 21
2. 論文標題 Development of an Assessment Scale for Engagement in Activities for Patients with Moderate to Severe dementia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 361-377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12678	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Leung S, Tanaka H, Kwok T	4. 巻 10(3)
2. 論文標題 Development of Chinese Version of Quality of Life in Late-Stage Dementia and Cognitive test for Severe Dementia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Dementia and Geriatric Cognitive Disorder Extra	6. 最初と最後の頁 172-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000511703	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishimaru D, Tanaka H, Nagata Y, Fukuhara K, Ogawa Y, Takabatake S, Nishikawa T	4. 巻 35
2. 論文標題 Impact of disturbed rest-activity rhythms on activities of daily living in moderate and severe dementia patients	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Alzheimer Disease & Associated Disorders an International Journal	6. 最初と最後の頁 135-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/WAD.0000000000000423	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tamaru Y, Tanaka H, Ueda M, Sumino H, Imaoka M, Matsugi A, Nishikawa T, Naito Y	4. 巻 20
2. 論文標題 Effect pf Alzheimer 's disease severity on upper limb function.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 802-804
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12585	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D, Ogawa Y, Fukuhara K, Nishikawa T	4. 巻 15
2. 論文標題 Possibility of Cognitive improvement in Severe Dementia: A Case Series assessed by Cognitive Test for Severe Dementia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Gerontology	6. 最初と最後の頁 174-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永田優馬, 田中寛之, 石丸大貴, 西川 隆	4. 巻 31
2. 論文標題 重度認知症者のためのQoL尺度 (Quality of Life in Late Stage Dementia 日本語版: QUALID-J)の因子構造に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 643-651
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石丸大貴, 田中寛之, 永田優馬, 西川 隆	4. 巻 31
2. 論文標題 認知症におけるengagement評価尺度; 日本語版Menorah Park Engagement Scaleの臨床的有用性の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 304-310
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福原啓太, 小川泰弘, 森 泰祐, 田中寛之, 西川 隆	4. 巻 33
2. 論文標題 統合失調症患者の声による情動表出能力について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪府作業療法ジャーナル	6. 最初と最後の頁 117-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中寛之, 永田優馬, 石丸大貴, 西川 隆	4. 巻 29
2. 論文標題 重度認知症者のための認知機能検査 Cognitive Test for Severe Dementia, Severe Cognitive Impairment Rating Scale	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 老年精神医学雑誌	6. 最初と最後の頁 1175-1181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D, Ogawa Y, Fukuhara K, Nishikawa T	4. 巻 20
2. 論文標題 Clinical factors associated with Activities of Daily Living and their decline in patients with severe and profound dementia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Psychogeriatrics	6. 最初と最後の頁 327-336
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/psyg.12502.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishimaru D, Tanaka H, Nagata Y, Nishikawa T	4. 巻 -
2. 論文標題 Physical Activity in Severe Dementia is Associated with Agitation Rather than Cognitive Function"	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 American Journal of Alzheimers Disease & Other Dementias	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1533317519871397.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ogawa Y, Fukuhara K, Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D, Nishikawa T	4. 巻 207
2. 論文標題 Insight into Illness and Defense Styles in Schizophrenia.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Nervous and Mental Disease	6. 最初と最後の頁 815-819
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計31件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 高橋 奈々, 仁木 一順, 上野 慶太, 岡本 美緒, 矢原 恵美, 木口 穂乃里, 馬淵 はづき, 田中 寛之, 野村 麻衣, 吉田 啓太, 山下 幸宏, 奥田 起視, 内藤 泰男, 石井 良平, 池田 賢二, 伊藤 壽記, 上田 幹子
2. 発表標題 軽度認知機能障害に対するVirtual Realityを活用した早期介入手法の開発に向けて
3. 学会等名 第22回日本早期認知症学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鍵野将平, 田中寛之, 宮崎展行, 中谷歩由美
2. 発表標題 人工膝関節置換術患者に対する運動再開時期 の検討 ライビングシュミレーターの反応課題を用いて
3. 学会等名 第42回近畿作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 後迫春香, 上月早貴, 田中寛之
2. 発表標題 認知機能低下を認めた独居高齢入院患者に対する退院支援 - 環境調整を中心としたIADLへの介入について -
3. 学会等名 第42回近畿作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中寛之, 韓 ゴアンヒ, 田平隆行
2. 発表標題 生活行為工程分析に基づく作業療法介入を実施したアルツハイマー型認知症の一事例. - 主に移動, 電話の生活行為に焦点を当てた介入 -
3. 学会等名 第42回近畿作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中井俊輔, 磯野 理, 田中寛之
2. 発表標題 脳卒中後中等度上肢運動麻痺に対して, 入院中から外来まで継続的な複合的アプローチとTransfer packageを中心とした短時間の介入を実施して, 復職に至った症例
3. 学会等名 第42回近畿作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松みゆき, 小林直人, 鳥居誠志, 田中寛之
2. 発表標題 認知症患者に対する集団作業療法の 介入効果の予備的検証 -活動に対する取り組み方の変化に着目して-
3. 学会等名 第31回埼玉県作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Tabira T, Ikeda Y, Maruta M, Han G, Tanaka H, Yamaguchi T:
2. 発表標題 Effects of ADL intervention based on Process Analysis of Daily Activity for Dementia in community-dwelling patients with Alzheimer 's disease
3. 学会等名 A non-randomized controlled trial. 18th WFOT CONGRESS, PARIS
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鍵野将平, 田中寛之, 宮崎展行, 池端歩由美, 久木 瑞穂
2. 発表標題 下肢人工関節置換術後患者に対する運転再開時期の検討 ドライビングシミュレーターの反応課題を用いて
3. 学会等名 第56回日本作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 久木 瑞穂, 鍵野将平, 田中寛之
2. 発表標題 脊髄損傷者のドライビングシミュレーターを用いた運転再開に向けた支援 改造車での運転が不安, いきなり実車は怖いへの介入
3. 学会等名 第56回日本作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 北田有紗, 浜田実瑠, 藤田周平, 大類淳矢, 田中寛之
2. 発表標題 作業活動により援助希求感と作業機能障害が改善した慢性期統合失調症者の症例 割箸アートを通して
3. 学会等名 第56回日本作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 上町彩夏, 宗田紗耶, 田中寛之, 鍵野将平
2. 発表標題 臨床現場における自動車運転支援で支障となっている要因についての調査
3. 学会等名 第56回日本作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宗田紗耶, 上町彩夏, 田中寛之, 鍵野将平
2. 発表標題 臨床現場における作業療法士による自動車運転支援の実態についての調査.
3. 学会等名 第56回日本作業療法学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中井俊輔, 磯野 理, 田中寛之
2. 発表標題 実物と写真で異なる認識を示した脳血管障害によるフレゴリの錯覚の一例
3. 学会等名 第46回高次脳機能障害学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋奈々, 仁木一順, 上野慶太, 岡本美緒, 矢原恵美, 木口穂乃里, 馬淵 はづき, 田中寛之, 野村麻衣, 吉田啓太, 山下幸宏, 奥田昶視, 内藤 泰男, 石井 良平, 池田 賢二, 伊藤 壽記, 上田 幹子
2. 発表標題 軽度認知機能障害に対する Virtual Reality を活用した早期介入手法の開発に向けて: 前向き臨床試験
3. 学会等名 第22回日本早期認知症学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中寛之, 永田優馬, 石丸大貴, 西川 隆
2. 発表標題 重度認知症者における食事自立度に寄与する因子の検討
3. 学会等名 第35回日本老年精神医学学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡本美緒, 仁木一順, 矢原恵美, 上野慶太, 田中寛之, 野村麻衣, 吉田啓太, 奥田昶視, 内藤 泰男, 石井良平, 上田幹子, 伊藤壽記
2. 発表標題 認知機能低下・BPSDの抑制を実現しうる新規デジタルセラピューティクス開発に向けた予備的検討 ~ VRの医療応用 ~
3. 学会等名 第30回日本医療薬学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 徳丸 愛 , 浅田 望 , 尾崎由唯, 田中寛之
2. 発表標題 活動に対する取り組み方がBPSDの改善に及ぼす影響 回想法の実践を通して
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中井俊輔, 大野泰輔, 磯野理, 田中寛之
2. 発表標題 日常生活上での半側無視の気づきに関する検討.
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小川泰弘, 田中寛之, 福原啓太, 石丸大貴, 西川 隆
2. 発表標題 アクチグラフを用いた生活リズムの可視化 就労に対する適切な行動へとつながった双極性 障害の一症例
3. 学会等名 第54回日本作業療法学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中井俊輔, 磯野理, 田中寛之
2. 発表標題 半側無視の気づきに影響を及ぼす因子の検討 ~BIT行動性無 視検査日本版 (BIT) の下位項目に着目して~
3. 学会等名 第43回日本高次脳機能障害学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中井俊輔, 磯野理, 田中寛之
2. 発表標題 半側無視の気づきに関する検討～3症例における机上検査と 行動評価の乖離～
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梅田 錬, 田中寛之, 正村優子, 黒木達成
2. 発表標題 認知症患者の活動に対する取り組み方評価尺度の 開発(第二報)
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 永田優馬, 田中寛之, 石丸大貴, 西川 隆
2. 発表標題 重度認知症におけるBPSDの分類-QoLとの関連 性-
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中寛之, 永田優馬, 石丸大貴, 西川 隆:
2. 発表標題 作業療法士は認知症を診ることができるか -パーソンセンタードケア理解度の調査から得られた結果より
3. 学会等名 第53回日本作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石丸大貴, 田中寛之, 永田優馬, 西川 隆
2. 発表標題 興奮症状の背景にある患者要因と介護者要因に対してアプローチした認知症の一例 ~ 予定がわからない不安と介護者の態度に着目して ~
3. 学会等名 第 39回近畿作業療法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石丸大貴, 田中寛之, 永田優馬, 西川 隆
2. 発表標題 認知症者の抑うつに対する作業療法介入の一例 入院を契機に生じた孤独感の改善と役割の獲得を目指して
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中寛之, 永田優馬, 石丸大貴, 西川 隆:
2. 発表標題 最重度認知症まで認知機能障害とADLは強く関連する
3. 学会等名 第34回日本老年精神医学学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D, Nishikawa T
2. 発表標題 What are effective ways to maintain cognitive abilities of people with severe dementia? -results of a one-year follow up using the cognitive test for severe dementia
3. 学会等名 13 th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ishimaru D, Tanaka H, Nagata Y, Nishikawa T
2. 発表標題 Associations of amount of physical activity with cognitive function, activities of dailyliving, and behavioral and psychological symptoms of dementia in severe dementia
3. 学会等名 13 th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nagata Y, Tanaka H, Ishimaru D, Nishikawa T
2. 発表標題 Factors of Quality of Life in Severe Dementia
3. 学会等名 3 th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fukuhara K, Tanaka H, Nagata Y, Ogawa Y, Nagata Y, Nishikawa T
2. 発表標題 Comprehensive Social Cognition in Schizophrenia from Social Common Sense Ability Perspective.
3. 学会等名 13 th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 田中寛之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 作業療法NOVA	5. 総ページ数 121
3. 書名 作業療法のエビデンス. EBP実践例 抑うつ症状に対してライフレビューを行なった認知症高齢者の1例	

1. 著者名 濱口 豊太、曾根 稔雅	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 328
3. 書名 日常生活活動・社会生活行為学 第2版	

1. 著者名 池田 学、村井 千賀、田中寛之（分担）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 メジカルビュー社	5. 総ページ数 180
3. 書名 重度別の認知症と作業療法	

1. 著者名 斎藤佑樹、田中寛之他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 青海社	5. 総ページ数 180
3. 書名 作業療法と目標設定	

1. 著者名 池田学 村井千賀 田中寛之他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 メジカルビュー社	5. 総ページ数 200
3. 書名 認知障害ケースブック 重度別 重度別の認知症と作業療法 - ADL/IADL能力の獲得に向けて	

1. 著者名 田平隆行, 田中寛之(編集)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 312
3. 書名 evidence based で考える 認知症リハビリテーション	

〔産業財産権〕

〔その他〕

田中寛之公式Webサイト <a href="https://othiroyuki.com">https://othiroyuki.com</a>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福原 啓太 (Fukuhara Keita) (60831005)	奈良学園大学・保健医療学部・専任講師  (34604)	
研究分担者	永田 優馬 (Nagata Yuma) (90832824)	大阪大学・医学系研究科・特任研究員  (14401)	
研究分担者	石丸 大貴 (Ishimaru Daiki) (60842755)	大阪大学・医学部附属病院・特任作業療法士  (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------